

1 設計主旨

静岡県東部に位置する三島市は、富士山の湧水に恵まれた水網都市である。市内を流れる源兵衛川は、商業地から住宅地を通り水田地帯に至る流域に、子どもの水遊び場や生物の棲息場など、様々な表情を生み出している。川での洗濯、野菜や食器の浄洗、農業用水としての利用など、源兵衛川は川沿いに住む人々の暮らしの中に生き、生業を生み大切にされてきた。また、近年では働き方や子育て環境、本当の豊かさを考え直したいといった理由から、自分らしい暮らし方を模索し、地方暮らしに憧れをもつ人も多い。

これらの背景のもと、本計画では、昔から人々の生活の中心として地域をつなげてきた源兵衛川の魅力を活かし、川と川辺における生業の関係を再考することを通して、源兵衛川沿いにおける新たな暮らし方及びそれらを支える建築を提案する。



地域住民は洗濯や食器洗いをしていた。昭和30年頃の源兵衛川の風景
出典：『特定非営利活動法人（NPO法人）グラウンドワーク三島提供』



地域住民や観光客で賑わう現在の源兵衛川

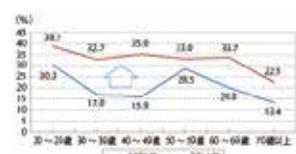


住宅に付随する川端
源兵衛川沿いの飛び石

2 地方暮らしと移住

東日本大震災以降、子供の教育環境の改善や、家族と過ごす時間の増加を求めるなど、ライフスタイルを見直し、地方暮らしを望む人々が増加しつつある。地方暮らしの魅力や移住・交流の情報発信を行い、行政の一環として移住プログラムを掲げ新たな住民の確保を目指している。

	2005年	2014年
20～29歳	30.3%	38.7%
30～39歳	17.0%	32.7%
40～49歳	15.9%	35.0%
50～59歳	28.5%	33.0%
60～69歳	20.0%	33.7%
70歳以上	13.4%	22.5%



都市住民の農山漁村への定住願望

出典：国土交通省「農山漁村に関する世論調査（2014年6月）」



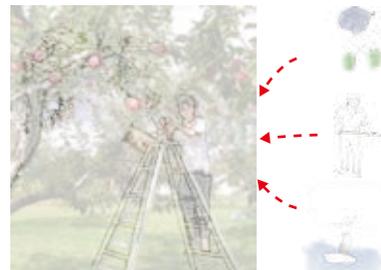
図3. ふるさと回帰セミナー・フェアの様子

出典：ふるさと回帰支援センター

3 生業と生活

わが国の職業は、大正9年の国勢調査では約3万5000種あり、平成24年「日本標準職業分類」の約2100種に比べはるかに多様であった。高度経済成長期に業種が絞り込まれ、特定の産業が急成長した。専門化と共に仕事の競争化が進んだ結果、人々は一つの仕事で生計を立てざるを得なくなり、仕事が生生活を圧迫する傾向が進行した。高度経済成長期以前は、人々は多様な職を組み合わせ生計を立てていた。生業とは生産の業であり暮らしの手立てである。例えば、農家は野菜を育てるために土などを耕す「仕事」をし、「生業」として収穫、販売する。

地域で生み出される生業は、収穫時期になると複数人で協力しあうこともあり、生業によって地域がつながり、支え合う生活が成り立っていた。



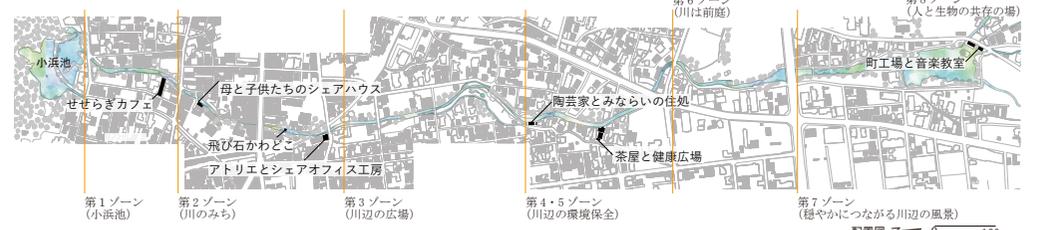
収穫時期を逃さないよう友人、知人の手を借りて作業にあたる

4 敷地の抽出

美しい水辺空間が保たれていた源兵衛川は、1960年代から都市化・工業化の進展や生活環境の変化に伴い湧水の減少が進んだ。渇水期には、家庭雑排水の垂れ流しや不法投機などにより水辺環境が悪化した。そこで、市民・行政・企業・NPOが協力し清掃活動を行った結果、近年水質は著しく改善された。地域住民の意見をもとに親水施設が整備され、現在では異なる特徴をもつ8つのゾーンに整備されている。



整備前の汚れている源兵衛川
出典：『特定非営利活動法人（NPO法人）グラウンドワーク三島提供』



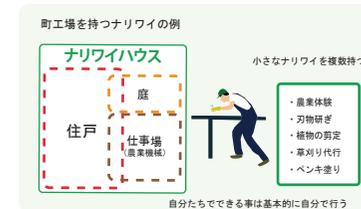
参考：日本建築学会『水辺のまちづくり 住民参加の親水デザイン』技報堂出版（2008年）

本設計では区分されたゾーンの一部を集約的に計画するのではなく、建築を点在させることで、それぞれのゾーンの景観を重視した提案とする。

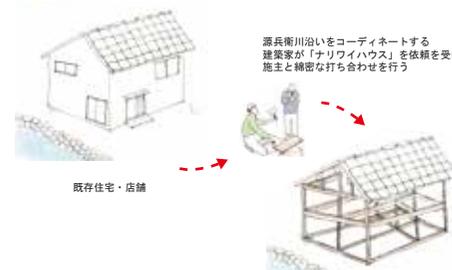
5 源兵衛川沿いに人々の居場所を創出する『ナリワイハウス』

リノベーション、コンバージョンまたは新築により、新たに生業を展開できる仕事付き住宅『ナリワイハウス』を川沿いに計画する。居住者は一つの仕事を専業とするのではなく、複数の小さな生業をもつ事で生活自給力を高める。例えば、農業機械の町工場を開き、週に2日は農業に従事し、その間にペンキ塗りや草刈りを請け負う。

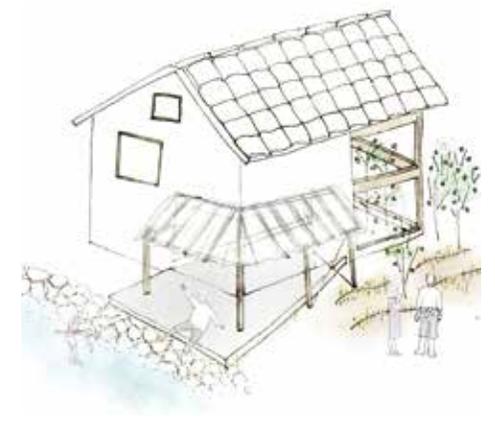
自分の小さな仕事と実際に出会った人の役に立ち、生業となる。生業は仕事の多様性を生み、自分の時間や家族と過ごす時間など、自分なりのライフスタイルを模索することを可能にする。



自分たちでできる事は基本的に自分で行う



ライフスタイル・生業に合わせて設計



ナリワイとライフスタイルを支え、源兵衛川のコンテクストを活かした地域住民も気軽に訪れることが可能な居場所も計画する。

『ナリワイハウス』 アトリエとシェアオフィス工房 /コンバージョン・・・第3ゾーン 川辺の広場

「アトリエとシェアオフィス工房」はシェアオフィス、木工房、ものづくりやデザインを生業とする人々が交流するきっかけをつくる。住宅などの解体を手伝うことで廃材を入手し、シェアオフィスに訪れるデザイナーなどと協議しながら、オリジナルの家具を製作しギャラリーで展示したのちに販売する。また、地域住民とも工房を通じて交流を促す。



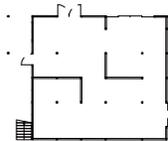
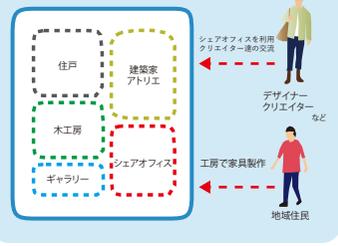
新たに展開される生業とライフスタイルを建築を通してコーディネートしていく。

ナリワイ

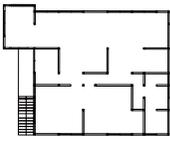
- ・建築家
- ・シェアオフィス
- ・木工房
- ・廃材から家具を製作
- ・ギャラリーを通して展示販売



「アトリエとシェアオフィス工房」



既存1階 S=1/200



既存2階 S=1/200



配置兼1階平面図 S=1/100



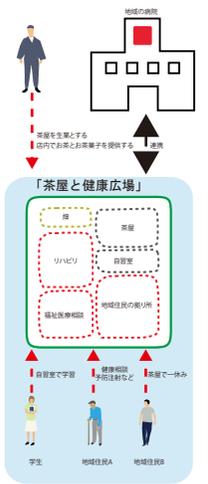
2階平面図 S=1/100



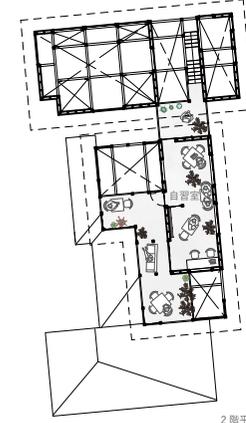
道路沿いに面し作業場を設け、此を増築する。作業場を地域に向け木工房利用者を呼び込む。木工房前のベンチは、コンバージョンした際の廃材を再利用している。

『ナリワイハウス』 茶屋と健康広場 /コンバージョン、新築・・・第6ゾーン 川は前庭

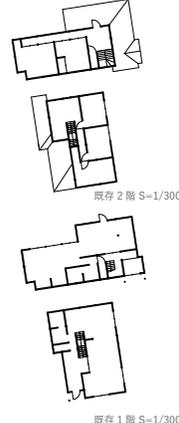
「茶屋と健康広場」は静岡茶を販売する茶屋と栄養、運動の指導が受けられるリハビリ機能と通院患者や高齢者が不安をよわらげるカウンセリング機能をもつ施設を設ける。一方で、茶屋や自習室を設けることで治療や介護だけでなく、お茶を飲む本を読むなど、地域住民も気軽に訪れることが可能な居場所も計画する。医療相談や問診をした後に地域の病院と連携をとる。地域に密着する福祉施設が充実することで高齢者や子供を見守る環境をつくり、周辺病院の玄関口として機能する。



配置兼1階平面図 S=1/150



2階平面図 S=1/150



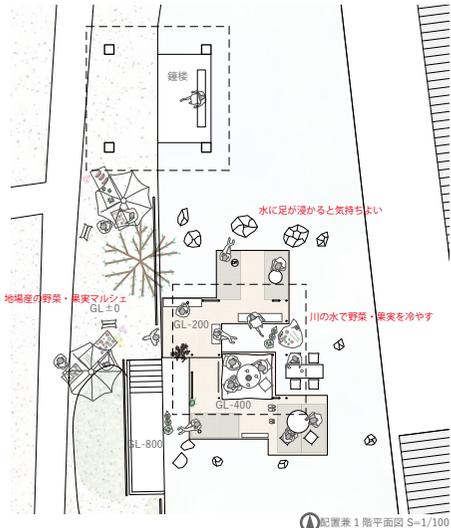
既存1階 S=1/300



リハビリ、福祉医療相談施設利用者だけでなく、地域住民も気軽に行けるように、用途ごと分節している。外部空間を取り込み、入りやすく多様な用途をもつ施設は、地域に馴染み日常の延長で治療を受けているような安心感を利用者にあたえる。

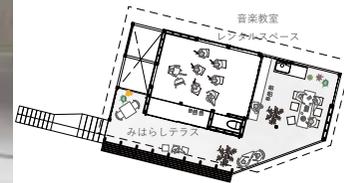
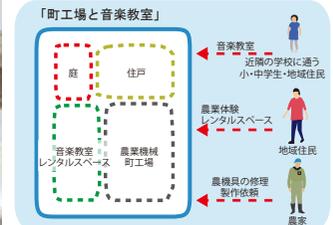
飛び石かわどこ/仮設・・・第3ゾーン 川辺の広場

「飛び石かわどこ」は川で涼を取る川床を飛び石状に計画した。清く浅い流れには誰もが靴を脱ぎ裸足で歩きたくなる。農家が朝取れ野菜のマルシェを開き、川では野菜を冷やすことで昔ながらの風景を再現する。



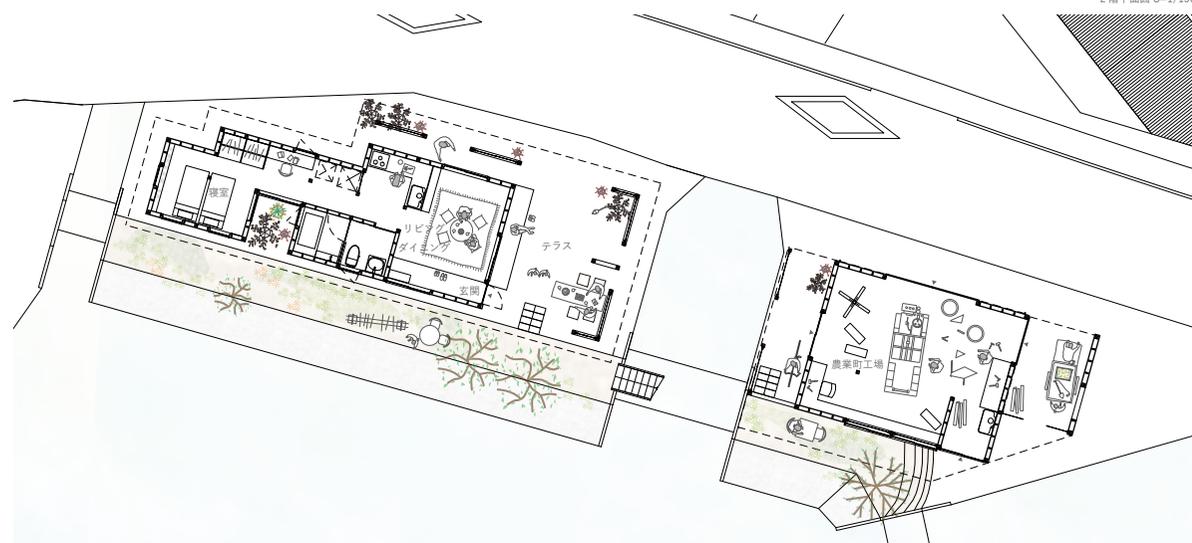
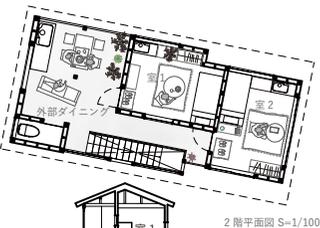
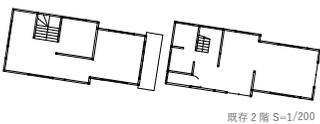
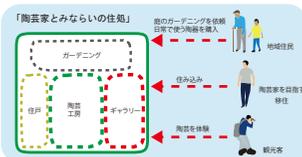
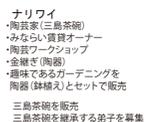
『ナリワイハウス』町工場と音楽教室/リノベーション、新築・・・第8ゾーン 人と生物の共存の場

「町工場と音楽教室」は独立住宅をリノベーションし、町工場を新築した。中郷温水池に隣接するこの場所は、下流域に広がる田畑を支える農業の拠点として機能する。中古農機を改造し、農業比較的安価で製作でき、収穫にあわせてオーダーメイドで製作するハイブリッドな雑種車を開発する。

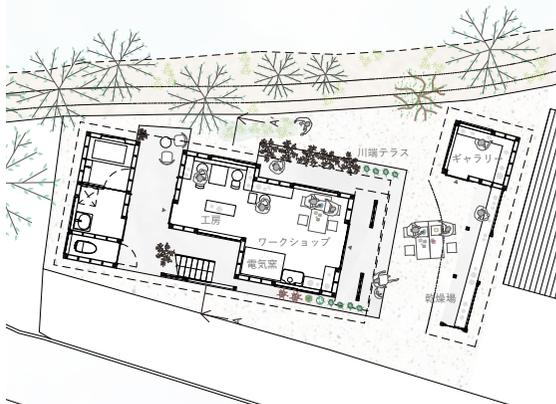
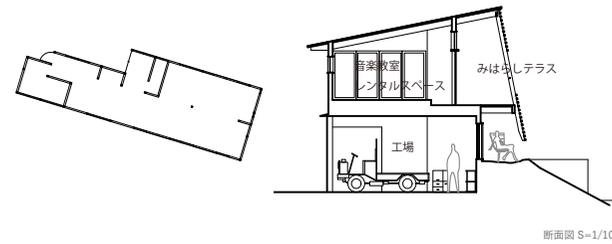


『ナリワイハウス』陶芸家とみならいの住処/リノベーション・・・第6ゾーン 川は前庭

「陶芸家とみならいの住処」は陶芸家の工房と陶芸家を目指し移住した若者の住処。陶芸家が受けた依頼を手伝い街に貢献することで家賃負担を減らす。金継ぎを用いてかけた陶器を復元し新たな価値を生み出す。また、独自の技術、知識を活かす植物にあった陶器（鉢植え）を組み合わせてオリジナル商品を販売する。



住戸は減築し、ガーデンングや外のお茶会など、行動を誘発させる大きな半谷部空間を設けた。工場は住戸を減築した際に現れる柱と、補強材であるブレースをファサードに取り込み、分棟でありながら一体感を与える印象を持つ。



配置案 1階平面図 S=1/100

A-A' 断面図 S=1/100

配置案 1階平面図 S=1/100

断面図 S=1/100

2階平面図 S=1/150